縁尋機妙とESG経営について

京浜急行電鉄会長
原田一之（はらだ　かずゆき）

今から10年近く前のことになるが、社長就任時に『縁尋機妙（えんじんきみょう）』という言葉を座右の銘とさせていただいた。仏教用語で「縁が縁を尋ねて、広がっていく様子は、良いもの」という意味である。大学の先輩で、横浜市の教育委員長だった方から頂いた言葉であった。その方は、日本の歴史や文化に造詣が深く、私への叱咤（しった）激励の意味を込めて、この言葉を教えていただいた。私自身の縁の広がりとともに、京急グループのステークホルダーの方々との縁がますます広がり、事業が発展していくことを念頭に置いて社長業に取り組めという意味だと勝手に解釈し、今でもこの言葉を大事にしている。蛇足だが、我が家の墓石にも「縁尋機妙」と彫り込んである。

さて、この縁というものは、偶然の出会いもあるし、人に紹介される場合などいろいろな形で、縁が生まれていく。この縁を本当の縁としていくためには、ある意味で努力が必要と考える。名刺を交換し、挨拶しただけでは、縁はつながっているとはいえない。それをきっかけにいかにその縁を育てていくかが大切。頂いた名刺を見直してみても、その大半がその場限りになっている。もう一度、お会いしたいという強い思いが必要である。時には酒を酌み交わすことも必要だろう。しかし、1つの目標に向かって、一緒に汗をかくことが、一番縁を深めていくことになるのではないか。こうした努力を惜しんでいては、企業としての縁も事業も広がっていかない。

昨今はリモートワークが、当たり前のようになっている。コミュニケーションツールという意味では、これも1つの有力なツールとは理解しているつもりである。しかし、もう一歩縁を深めていくためには、リアルで、直接的な対面によるコミュニケーションをすべきと考える。これは私の本業が鉄道業であることに関わっている。コロナ禍となって「3密」を避けろと言われ続けて、3年がたってしまった。人々は電車やバスで通勤しなくとも、仕事ができることも知ってしまった。あえてこの状況に苦言を申し上げたい。「直接顔を合わせなくても、本当に効率よく仕事の成果を上げることができるのか？」とまさに時代に逆行するような意見を投げかけている。そもそも人間という種は、本質的には、社会性を身に付けて初めて生き延びることができた種だと考えている。集団で生きていくための規律や仕組みそして宗教や文化など様々な社会システムを築き上げ、助け合い、寄り添って、種の保存を成し得てきたと考えている（少なくとも私はそう思っている）。

昨今、ＥＳＧ経営の重要性が叫ばれ、持続可能な社会とともに、サステナブルな企業を考えるべきと言っているが、人間の本質論から考えれば至極、当然なことと考える。

ぜひ、本年が、ウィズコロナ時代の幕開けとなることを心より祈念して、よりリアルにより直接的な対話が進むことを願っている。日本の企業各社が、国内外の新たな縁を尋ね、ＥＳＧ経営に取り組んでいくことを期待するとともに、私自身もこれまで頂いた縁を大事にし、新たな縁を尋ねてまいりたいと考えている。